

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名

水道局営業課

会 議 名 平成 29 年度 第 2 回 諏訪市公営企業運営審議会

開催日時 平成 29 年 12 月 19 日(火)

出席者

<委員>
藤森貫治(会長)、渋谷利明(副会長)、有賀秀子、武田なつ子、辰野博之、松木義文、守屋輝代、吉江徳男

<諏訪市>
金子ゆかり(市長)、河西活水(水道局長)、藤森孝昭(営業課長)、有賀孝治(施設課長)、岩波万佐巳(営業課庶務係長)、守屋行彦(営業課料金係長)、新村憲悟(施設課上水道係長)、後藤準市(施設課温泉係長)、乙黒勝美(施設課下水道係長)、日達紳也(営業課庶務係主査)、堀川和俊(営業課庶務係主査)、向山陽光(施設課上水道係主査)

※傍聴者なし

資 料

- ・諏訪市の水道料金及び体系(資料 1)
- ・県下 19 市及び近隣町村との水道料金比較表(資料 2)
- ・水道料金の改定(案)のポイント
- ・水道料金の改定について(諮問)
- ・水道料金改定に関する補足説明資料
- ・諏訪市水道事業投資・財政計画(H30.10 料金改定版)
- ・料金改定による影響額総括表
- ・検針水量別調定件数分布表
- ・料金改定による影響額一覧表

議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開会

2. 市長あいさつ

【市長】

第 1 回の運営審議会において、水道局から説明したように水道事業に関しては、近年の給水人口の減少や施設の老朽化対策・耐震化等多岐にわたる課題を抱えている。そういった状況の中で、将来にわたって水道事業を持続していくために本年度策定した諏訪市水道事業ビジョンにおいては、水道料金の見直しについて言及しているところである。市として慎重に議論・検討を重ね、本日、本審議会に水道料金の改定について諮問させていただき手はずとなった。委員各位においては、十分にご審議をいただいて答申をいただきたくお願い申し上げます。

3. 諮問

4. 議題

(1) 水道料金改定(案)について

・現在の水道料金及び料金体系の説明

水道局より「資料 1」及び「資料 2」の説明

・諮問内容の説明

水道局より「水道料金の改定について(諮問)」、「水道料金の改定(案)のポイント」及び「水道料金改定に関する補足説明資料」等の説明

(2) 質疑応答

【委員】

実際の負担増加額をお聞きしたい。今日ここに「水道使用水量のお知らせ」を持参してきたが、営業用で 148 m³使用したと記されている。この場合は、額にして 2,393 円、率にして 10.35%請求額が増加するという解釈で良いか。

【水道局】

そのとおりである。

【委員】

今月の初めにたまたま私の自宅内で漏水があった。自宅は築 40 年程になるが、40 年前は管を裸の状態で行き込むのが主流だったのか。

【水道局】

図面等が無いので正確なことは申し上げられないが、その当時の宅内管は、鋼管で防食テープを施さないのが一般的であったと考えられる。

【委員】

当時の本管も同じような状況と考えてよいか。

【水道局】

本管のうち 7 割以上を占めるダクタイル鋳鉄管という管種について話をすると、防食テープなどによる保護をしないのが一般的である。

【委員】

宅内管に比べて丈夫な種類の管を用いているということか。

【水道局】

法定耐用年数は、40 年と定められているが、鋳鉄管の場合、埋設状況等によっては更に長期間使えると言われている。

【委員】

諏訪の場合には地盤が緩く、道路の不陸も多く見られる状況であるが、水道管への影響もあるのか。

【水道局】

40 年程前に布設されたダクタイル鋳鉄管に限った話をすると、継ぎ手部分に若干の遊びがあることによって、地盤沈下等の影響を逃がしているというのが実際のところであり、地盤沈下を直接的な原因とする漏水というのはごく僅かであると認識している。地盤沈下が原因で発生する漏水は、橋と道路の境目などで不等沈下が起こる場合に発生しやすく、ここ数年で数件確認している。一方、道路の下だけを見ると全体的に沈下していくので漏水の直接的な原因にはなりにくいものと考えられる。

なお、現在新たに布設しているダクタイル鑄鉄管は、継ぎ手の遊びが大きくなっていたり特殊なストッパーが付いていたりすることによって、地震や地盤沈下に更に強い作りになっている。

【委員】

前回の審議会で、諏訪市の有収率の低さについて話があったが、その一番の原因は何か。

【水道局】

まずもって漏水が最も大きな原因であると考えられる。また、水の循環を確保して良好な水質を保つために、配水管が行き止まりになっているような場所では、常時敢えて水を払っているようなケースもあり、これも要因の一つではないかと考えている。

【委員】

第 1 回審議会の話や先ほどの水道局からの話を聞いて、今回の料金改定はやむを得ないと感じる。今後は、5 年置きを目途に改定をしていかなければならないという話があったと思うが 5 年後 10 年後の改定率についてシミュレーションはしているか。

【水道局】

水道事業ビジョンの投資・財政計画は、幾つかの条件設定の下シミュレートしたものである。具体的には、①今後 10 年間で税抜きで 50.6 億円の投資を行う、②災害リスク等への備えとして 10 億円程度の現預金を常に確保する、③料金改定期間は 5 年以上とする、④利用者への影響を考慮し、改定率は 10%以内にするというものである。これらの条件をすべて満たすためには、平成 30 年度と平成 35 年度に値上げをしなければならないという結果が導き出されている。シミュレーションにおける平成 35 年の具体的な改定率は、今回と同様 10%程度となっている。

【委員】

平成 35 年以降も 5 年置きに値上げをする可能性があるということか。

【水道局】

ある時点で料金改定を行った場合は、その後最低 5 年間は改定をしないという条件の下シミュレーションを行ったということであって、必ず 5 年置きに改定をするということではない。今回は、実際には 40 年先までシミュレーションを行っているが、平成 35 年改定の次は、平成 48 年に改定を行うシミュレーション結果となっている。また、平成 35 年に料金改定が必要であるというシミュレーション結果は、計画策定時点のものであって、実際に料金改定を行う前には、計画の進捗状況や給水収益の状況等をチェックすることとなる。しがたって、平成 35 年に 10%の値上げをするということを確約するものではない。

【委員】

投資の具体的な計画はどのような内容となっているか。

【水道局】

管路に関しては、厚労省が示す実耐用年数や諏訪市内でのこれまでの実績等を参考に諏訪市独自の更新基準を定めて、基本的にはこの基準を超えたものから順次更新をしていくことになる。実際の工事は、現在作成中の整備計画の中で重要路線や優先路線を決定し、順次手を付けていくこととなる。

【委員】

投資や資産に関する目標値があって、5 年ごとに値上げをすればそれらの数値が達成されるというような考え方をしているのか。

【水道局】

老朽資産を更新するに当たり諏訪市独自の更新基準で更新投資を行った場合に、年間でどの程

度の金額の投資をしなければならないかという数字を持っていて、それだけの投資を行うに足る財源を確保するために適時料金改定を行うという考え方である。

【委員】

用途別の料金体系を採用している県内の市は諏訪市と東御市のみということだが、用途別料金体系を採用するメリットはあるのか。

【水道局】

諏訪市の産業構造は、製造業や観光産業等様々な産業が基幹となっており、それぞれの利用者に最適な水道料金をご負担いただくという観点から、旧来より用途別料金体系を採用してきているところである。営業課長から用途別料金体系を採用している水道事業者が全体の3割程度という話をしたが、用途別料金体系が良くないとか口径別料金体系にすべきであるなどという類の話ではない。

諏訪市水道局としては、料金体系の在り方についての研究は今後も行っていく予定である。

【委員】

私が住んでいる地域は、一人暮らしの高齢者が非常に多く、また多くの家庭で温泉を自宅に引いている。水道局からの料金請求は、上下水道料金と温泉料金が一度に来るため、請求金額は一人暮らしの高齢者にとっては多額のものとなる。今回の料金改定の報道や話題に触れて大変不安に思っている方も多いと思うので、上水道料金のみが改定されるということをしかりと広報すべきと考える。

【水道局】

広報については、広報すわへの複数回にわたる情報掲載やホームページでの周知のほかあらゆる手段を講じていきたいと考えている。

【委員】

諏訪市の水道料金が他市に比べて安い理由としては、どのような事が挙げられるか。

【水道局】

原水の調達コストが非常に安いことと原水の水質が良質であり、浄水に係るコストを抑えることができることが大きな要因である。浄水に関しては、基本的には塩素を添加するだけで利用者の皆様にお届けできる状態になるものであり、川の水をくみ上げて大きなプールのような施設で何日もかけて浄水する水道事業者と比べるとそこに係るコストの差は非常に大きなものとなると考えられる。

もう一つの大きな要因としては、これまで建設投資を抑制してきたということが挙げられる。建設投資を抑制するということは、それだけ借金を少なくすることが可能であり、ひいては支払利息というコストを大幅に削ることが可能となった。また、新たな投資をしないので後年における減価償却費というコストを抑えることに繋がっている。一方で、建設投資の抑制は、資産の老朽化を招くことになり、管路老朽化率は県下でワースト1位という状況となっている。したがって、諏訪市の水道料金が安いということと資産の老朽化度合いが激しいということは、表裏の関係にあるということをご理解いただきたい。

【委員】

給水収益が減少している要因の一つに人口減少があるが、水道を使って物を作ったり商売をしている人や法人が諏訪市から出て行ってしまっていることも要因の一つと考えられるが如何か。

【水道局】

ご指摘のとおり事業者が減っていることも給水収益が減少する要因の一つであると考えます。市長をはじめ産業の誘致ということに関しては、注力しているところであるが、諏訪市の場合は、郡内の他市町村に比べて土地の価格が高いということがネックの一つになっていると感じる。

【委員】

諏訪市の水源地の場所などについて理解を深めるために水源地を見せてもらうことはできないか。

【水道局】

施設の性格上、一般の全ての方に見学していただくというのは難しいが、委員の方からの要望であればご案内することは可能である。

【委員長】

一般の方向けには難しいと思うが、委員が水道水の製造過程や施設の老朽化度合いに関し理解を深めるためにもそういった機会を設けていただきたい。

【水道局】

これからの時期は、雪の心配もあるので新年度での実施を検討したい。

【委員】

補足説明資料の中に人件費の推移のグラフがあるが、これは給与総額を示したものと考えて良いか。

【水道局】

給料や手当の他社会保険料等あらゆる人件費を含むものである。

【委員】

グラフでは一貫して人件費が減少しているが、これは職員の数が減ったことによるものか。

【水道局】

そのとおりである。

【委員】

職員が減少している中で、今後はこれまでの倍以上の工事をこなしたり熟練工を育てたりしなければならないが、現時点で対応策は考えているか。

【水道局】

職員の数を事業量に合わせて増やしていくということは、現実的には難しいと考えている。お話のあった熟練工の育成という面に関しては、例えば水道局独自の職員を採用するなどの人事戦略を今後も講じていく必要があるだろうと考えている。より短期的な話をすると、工事の発注方式を変えていくということも視野に入れていく必要がある。例えば設計・施工一括発注方式という発注方法が近年は注目されている。工事の設計業務や監督に取られるマンパワーというものは過分に存在するが、こういった部分も含めて工事と一緒に発注することでより多くの工事を効率的に発注することが可能となる。

【委員】

自宅の前で同じ時期に上水道の工事と下水道の工事がそれぞれ別の業者により施工されたことがあった。見ていると同じ所を掘ったり埋めたりを繰り返しているようであったが、業者間で調整をすることにより効率的な工事を行い、より低価格で工事発注をすることはできないか。

【水道局】

上水道と下水道では工事の日進量が大きく異なる。上水道の場合は、管路自体の勾配をさほど気にすることなく布設できるので日進量は大きいですが、下水道管の場合は、自然流下であるため下流に行くほど深く布設する必要があり、勾配や地盤の状況をシビアに見ながら布設するため日進量は小さい。また、管路の埋設深度も異なることから同じペースで工事を進めるのは難しい。

最近では、そういった中でも効率的に工事を進めることを目的に道路管理者と地下埋設物管理者

と一緒に調整会議を行っているため、昔に比べると効率的な工事は行えているものと認識している。

【委員】

民間企業が値上げをする場合は、値上げによってこういう改善が可能になるとか商品のここが良くなるなどの PR が同時に行われる。今回や今後の水道料金の値上げによって水道局が目指している「安全で強靱で持続可能な水道」が実現されるということをも具体的に解りやすく市民に示すということをも継続的に行っていく必要があると感じる。

【水道局】

そのように努めてまいりたい。

【委員長】

各委員からの意見を聞いてきたが、概ね諮問内容に賛同する意見で審議会としてまとまるかと思う。諮問どおりの内容で答申することとし、お出しいただいた要望等については付帯意見として、答申書に付すということによろしいか。

【委員一同】

異議無し

【委員長】

付帯意見として列記する事項や、細かな文章表現は私と渋江副委員長にお任せいただき、それをたたき台にして次回の審議会に必要な修正するということによろしいか。

【委員一同】

異議無し

【委員長】

それでは、そのような形で進めていくこととする。他にご意見等が無ければ本日の協議はここで終了とする。

5. その他

(1) 第3回日程 平成30年1月15日(月) 午後1時30分～
場所:市役所5階 502会議室

(2) その他

6. 閉会